

グリーンサークル31号

クローズアップ 相田 幸一
活動団体、講座クローズアップ 鶴牧西みどりの会・どんぐり工作
多摩市みどりのかわら版 引地 毅



カラスビシャク

～クローズアップ～

多摩市の雑木林・みどりの活用 なな山緑地の会 相田 幸一

はじめに

多摩市内の雑木林の活動が、大きな働きとなって展開しつつあり、今後もさらに広がりを見せる気配も感じられます。

その中で、活動によって発生する木材の利・活用をどう進めるかは、大切な課題となっているように思います。そこで、私の所属する「なな山緑地の会」の活動に照らして、「みどりの活用」に焦点を当ててみることにします。

木材用の樹木が発生するのは①樹木の健全育成のため・景観保全のための間伐によるもの、②枯損木・倒木の発生によるもの、③枯損木・倒木になる恐れのあるもの・落枝の恐れのあるものの伐採のいずれかと考えます。

木材の活用例として、階段の段木とその固定杭、土留め、休憩用の長テーブルや椅子、おもちゃ、スプーンや皿、薪、炭材、チップ材等、その用途は限りがありません。

どんな樹種があるか

活動の中では、あくまで発生材であって、木材として選木するわけではありません。そのため、手に入る樹種にも限りがあります。手に入りやすい樹としては、コナラ・クヌギ・ヤマザクラ・ケヤキ・シラカシ・ヒノキ・ヤマグワ・ヌルデ、針葉樹のスギ・ヒノキ・アカマツ、などが主なものです。針葉樹は比較的柔らかく、木目も美しく多用途に使いやすい。広葉樹は個性的な木目があり一般的には堅い。コナラ、ヤマザクラなどは最も多く発生する材であろうと思いますが、放置しておくとうちに虫が入り腐食が進んでしまうようです。また、ケヤキ・シラカシは最も堅い材料だと言えます。堅い材は、半生木状態の時に、ある程度加工を進めておくと作業が楽になります。ただし、乾燥後のひび割れの入り方など想定しておくことが大切で

す。ヌルデは肌の白さ、削りやすさなどが削り花などに適しています。

何をどうするか、そのヒントを探す

先進活動地を見る機会があれば、その中から見つけ出せるものは多いはずで。地方や林業地を訪ねられれば、地元の林や木工物産にヒントを探し、多摩中央公園・日比谷公園・代々木公園などで開催される木工・木材などの展示販売のイベントでは、じっくりと見聞きして、その用途や作り方をしっかり頭に刻み込むことです。そうして自らの活動場所に於いて、お手本にしたり応用したり製作実施してみることで。これは大いにお勧めします。

さてその先は

作る本人は、それを楽しみ、自己満足でもよい、自画自賛する。そして、雑木林の活動計画の中に木の利用を盛り込み、会員・近隣一般人・小中学校や近隣の子供たちに、その楽しみを伝えていく。そうすることにより、作る技術は向上し、大いなるやりがいに繋がっていくでしょう。

ここ数年、樹木のほかに、アズマネザサの利活用を盛んに進めています。多摩のめかいつくりは最も歴史のあるものですが、現在は、なな山緑地のオリジナルとして、シノダケ・ヒンメリづくりの人氣がじわじわ高まっています。農園の野菜の支柱としての利用が復活しつつあり、林床の野草の目印杭や保護柵としても充分利用できます。また、すだれ状のもの、鍋敷き、コースター、展示などのディスプレイにも活用できます。遊びとして、しの笛、弓矢も子供たちに人気です。

多摩のみどりの活用を、大いに促進してゆくことが、雑木林活動のより良い発展につながることを確信しています。



スプーンやフォーク



木の鯉のぼり



長テーブル

～活動団体クローズアップ～ 「鶴牧西みどりの会」 よろしくお祈いします
鶴牧西みどりの会代表 古澤 秀人

平成29年3月「鶴牧西みどりの会」は発足いたしました。発足時の会員数はグリーンボランティア森木会からオブザーバーとして参加された2名を加え総勢7名というスタートとなりました。鶴牧西公園の管理育成は、いままで高齢者事業団の方々（作業班・事務班）が行っていましたが、今回私たちがその雑木林の一部を受け持ち、管理育成を行うことになりました。

多摩市には自然がありのままに残る多くの公園緑地がありますが、それらの多くの公園緑地をグリーンボランティア森木会の団体や会員が多摩市と協定を結び、管理育成を行っております。当会も発足後の平成29年9月1日、正式に協定書を交わして本格的な活動を開始いたしました。

活動は月1回のペースで午前中です。まずラジオ体操の準備運動から始まり、連絡事項の周知、本日の作業予定、それに伴う安全等の注意事項を行ったあと実作業に入ります。

発足後、1年が過ぎなにもぶんに会員数がやっと6名（オブザーバーを除く）の状況で、これまでにを行った活動は下草刈りがほとんどでしたが、公園緑地の管理育成のローテーションは何となく分かってきたつもりです。現在の草刈りが来年、再来年とどのような成果となって表れるか楽しみでもあります。今はより作業の効率化を求めて、わずかな会費の中からほうき、熊手やガーデンバケツなどの道具が少しずつ揃い始めており、活動も充実感が増えています。

当会が管理育成を担当する雑木林には、ニュータウン開発以前に生えていた貴重な植物があり、下草刈りでも最善の注意を払いながら、それらを刈込まないようにしています。

例えば、キンランやギンランは春にきれいな花を咲かせます。絶滅危惧種に指定されているタマノカンアオイの花は、ひっそりと遠慮深く



管理育成中の雑木林（鶴牧西公園）

葉の下に隠れるように咲いています。その他にも春は色々な植物が咲き誇っています。最近、植物愛好家の方からご指導をいただいた事ですが、都の準絶滅危惧種キバナアキギリが池の近傍に群生していました。秋にはきれいな花を咲かせるとのことです。さらにヤマドリソウも可憐なうす青色の花を1輪だけ咲かせていましたが、これも貴重な植物とのこと。今後株数を増やして欲しいと懇願されました。

私たちの雑木林は、鶴牧西公園全体から見ればわずかな範囲ですが、将来の構想として「公園と雑木林の調和、来園者の憩いの場、近隣住民との良好な関係作り」を目指して活動を進めていく所存です。会員の増員が大きな課題のひとつですが、今後、構想を現実させるべく、遊歩道の近くは雑木林に生えている植物や他の団体から移植した植物で地域の方を楽しませたり、散策ができる小道の造作、樹木の名札付等、活動の範囲を広げて行きたいと考えています。一緒にアイデアを出し、汗をかく仲間を募集しています。

まだまだ駆け出しの小さな活動団体ですが、皆さんの知恵をお借りしながら、会員一同管理育成に尽くしていくつもりです。ご支援をよろしくお祈いいたします。



作業風景（草刈り）



少しずつ道具も増えてきました

活動日や連絡先

活動日：毎月第3土曜日
活動時間：午前中
問い合わせ：
多摩市立グリーンライブ
センター
電話：042-375-8716

～講座クローズアップ～

どんぐりに学ぼう 一本杉公園みどりの会 佐藤堅太郎

皆さんはどんぐり(団栗)をよく知っていますね？丸い栗の様な形からそう呼ばれる様になりました。(他にも諸説あります)

どんぐりはカシ、クヌギ、ナラ、シイ、ブナなど広葉樹の果実の俗称(通称)で世界で300種、日本で20種あり、それぞれに名前があります。日本でブナ、イヌブナ、カシワ、ミズナラ、ナラカシワ、コナラ、アラカシ、シラカシ、イチイガシは1年で実を付け、クヌギ、アベマキ、ウバメガシ、ツクバネガシ、アカガシ、オキナワウラジロガシ、スダジイ、マテバシイ、シリブカガシ、ウラジロガシ、ツブラジイは2年かかって実を付けます。一を通じ7月から8月にかけて実を付け、9月から10月頃に実が落下します。

地面に落ちたどんぐりの実の一部は芽を出し、根を張り、双葉を付け30年から100年を掛け、それぞれ一本の大きな木に成長し森を形作ってきました。そしてきれいな水、おいしい空気(新鮮な酸素)、栄養のある土の中で多くの生き物に恵みを与え 動物たちだけでなく、私達人間にもこの恵みなくては生活出来ません。

どんぐりは、大昔それも縄文時代(紀元前2000年～1500年頃)から植物のアワやヒエと同じ人間の主食でした。それだけでなく、森の動物であるリス、ネズミ、サル、タヌキ イノシシ、クマ、シカ、カケス、オシドリ、加えて虫でもミミズ、ムカデ、ダニ、クモ等多くの命を支えてきました。このどんぐりの林や森での

役割(いろいろな樹木のうちでも成る実の量が圧倒的に多い)を知り、食物連鎖の中心にある事 の理解を深めもっと、もっともっと親しんでもらえる様、どんぐり工作を通じ活動を進めてゆきたいと考えて居ります。



講座の様子



できた作品



どんぐりや木の实

講座についてのお問合せ

問い合わせ：グリーンライブセンター
電話：042-375-8716

どんぐり工作：毎年9月に開催。お申し込みはグリーンライブセンターまで。

多摩市みどりのかわら版

GLCの人たちと普段着の私
多摩市立グリーンライブセンター 引地 毅

市役所に勤めて40年が過ぎようとしていて、グリーンライブセンターに異動して早3年が経とうとしていますが、このグリーンライブセンターの職場の人たちのことで、ボランティアの方々が知らない一面に少し触れてみることにします。

市役所では組織内の気心知れた仲間内と隣で何をやっているか大体分かった中で仕事ができているのが、グリーンライブセンターに来てからは、ボランティアの方はもちろん、恵泉女子大学のスタッフの皆さんは、女子大の雰囲気を出していますし、一方、グリーンボランティア連絡会のスタッフは皆さんの出身母体やこれまでの経歴も様々で、なおかつ、グリーンボランティア連絡会事務局の役割も人それぞれで、ましてや勤務ローテーションも週毎に変わり、一定した人的、仕事のルーチンの中でやって来た市役所時代とは打って変わって、ある種、乗合船に乗り合わせているような感じでしょうか。

さりとて、私は今も、多摩市公園緑地課の職員であり、多摩市立のグリーンライブセンターという館の管理を任されており、田口さんというパートナーもいるわけですし、毎日のように公用車を使って交換便（決裁文書や伝票を公園緑地課に持って行く事）に市役所に行くわけですが、一旦、市役所に1歩足を踏み入れると、元のようになら躊躇なく、市の職員の一員として振舞っている私がいいます。

もう少し、乗合船の乗り心地を話してみたいと思います。それは、グリーンボランティア連絡会事務局の赤羽さんをはじめ、事務局のスタッフの皆さんは、ある時は事務局スタッフの一員としてパソコンや電卓を前に集中して時間を忘れ

る程です。また、グリーンボランティア講座などの時は、ヘルメットを被り、鉋、鋸を腰に下げ、リュックや籠を肩に下げ、いかにも山から出てきたのかと見間違える程の出で立ちで望む姿。そして、恵泉女子大のスタッフの皆さんも、事務を執っている時とガーデンに出る時は、打って変わって、頭に麦藁帽子、園芸畑に出るかの様な出で立ちになり、暑いときは汗びっしょりになって事務室に戻って来るのを見て、普段着の私は、思わず「うはあ〜」と、声が出そうになることもしばしばあります。

私がグリーンボランティア連絡会のスタッフの皆さんと恵泉女子大のスタッフの皆さんと、一緒に仕事をするのは、ほとんどグリーンライブセンターの事務室にいる時がほとんどです。

先ほどお話をしたように、それぞれのスタッフの皆さんが、打って変わって、それぞれの生業に打ち込んでいる時のものと、事務室で机に向かっているものとは、とんでもなくかけ離れているのです。

そんな皆さんと一緒に事務室にいる事は、普段着の私にとってグリーンライブセンターは、乗合船に乗り合わせているような職場（事務室）なのです。



編集後記

今年は記録的な猛暑！どうやら暑さを感じているのは人間だけではなくさそうです。セミの羽化の時間が例年よりも遅い時間に始まり、カブトムシも活動時間にズレがあるようで、日中でも見つかることが多いです。体調管理に気を付けつつ暑さを楽しめる夏にしたいものです。さて、写真のカブトムシも夏休みを満喫しているのでしょうか。（高澤 愛）



表紙の絵

「カラスビシャク」(サトイモ科)

絵・内城 葉子

柄杓（ヒシャク）に見立て、小さいのでカラスにあてたとか。根茎は深く、畑に入られると草取り泣かせです。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習区鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信 グリーンサークル31号

発行日:2018年8月22日

編集・発行責任:多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>